

社会が及ぼす夢と希望と悪夢

オーストリアのジークムント・フロイト (図1) は精神分析学の創設者であり、心理学に多大な影響を与えた人物である。彼は無意識の概念を提唱し言い間違い、忘却などの行動に無意識的な意味があると考えた。彼の理論には“自我”の心理的構造が含まれ、これらは人間の行動や思考に深く関わり、フロイトの功績には「夢判断」(図2)がある。

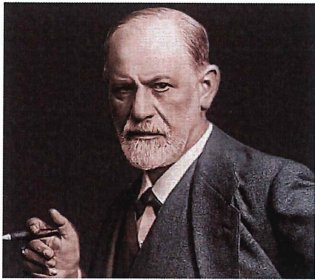


図1. ジークムント・フロイト



図2. 夢判断

「夢」とはREM睡眠中に見る視覚的なイメージや物語であり、脳が記憶を整理する過程で生じるものと考えられ、夢には処理しきれなかった記憶を整理する役割や感情の処理、記憶の固定に寄与する効果があり、「悪夢」はネガティブな情報を適切に処理するための効果もある (図3)。



図3. 悪夢

寝ているときに見る「夢」と自分の未来に思い描く「夢」。同じ言葉でも全く意味が異なっているのはなぜか？
かつて人々は自分の将来を自由に選択できない時代が長く続いていた。過去には生まれた家柄や身分によって将来の道が決まっていたため、“自分は将来こうなりたい”と夢見ること自体、思いもつかないばかりか難しかった (図4)。

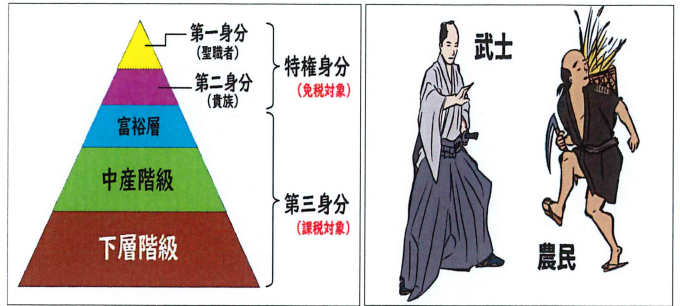


図4. 身分による階級の差

原始時代、人々は協力して田畑を作るだけでなく採れた作物もみんなで分け合って暮らしていたが、各地を比べると、土地の質や広さの違いによって豊かさに差があった。この違いがわかると貧しい人々は少しでも土地を広げ、作物を増やそうと努力するようになり、人々の競争が始まった。

このように競争が始まると人々の仲を巧く治めたり他の人々との争いを上手く解決するために民衆を指図する指導者が現れると、民衆はその指導者の言うことに従うようになり、指図する人と指図される立場が生まれ、身分の違いが誕生した。

この頃の人々の墓を見ると身分の違いや貧富の差が理解できる。立派なモノが沢山入っている棺もあれば死体以外何も入っていない棺もある (図5)。

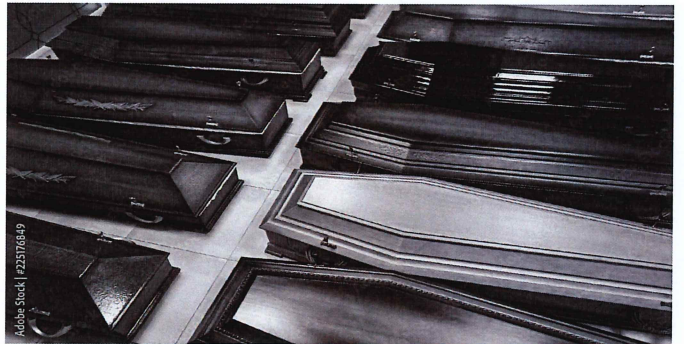


図5. 棺に埋葬される身分の差

しかし、近代国家が誕生、日本では明治時代になると江戸時代の“身分制度” (図6) が廃止され、

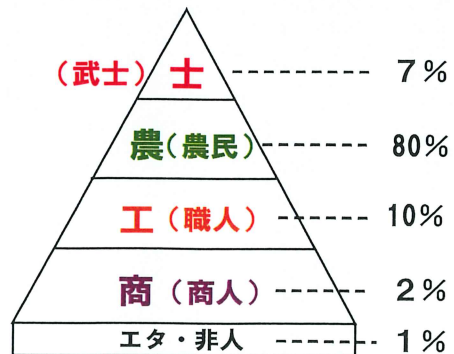


図6. 江戸時代の身分制度「士農工商」

社会の仕組みが大きく変わり、交通網が整備され教育の機会が広がり、人々は家や土地に縛られずに職業を選択できるようになってくると、時代の流れと共に、「夢」という言葉が未来への“希望”や“目標”を意味するようになったのである(図7)。



図7. 夢から希望・目標へ

奈良時代の『万葉集』には「夢」という言葉があり“寝ているときに見る不思議な光景”を表した。人々にとって「夢」は“神や仏からのメッセージ”として大切に扱われ、寝ているときに見た夢の中に自分の運命や未来が示され、「夢」＝“神秘的な予兆”と長い間、信じられていた(図8)。

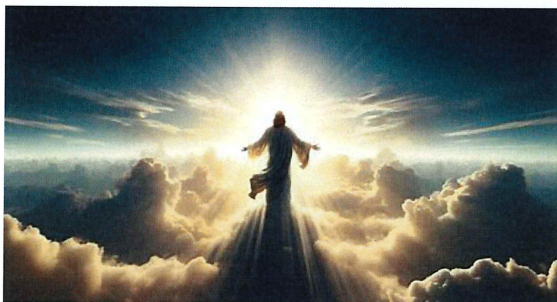


図8. 神からの啓示

江戸時代まで「夢」はずっと“睡眠中に見るもの”で“将来の夢”という意味はなかった。それは身分制度によって人々の未来は構成されていたからである。

各々の階級には守るべき立場と役割があり、人生はその枠の中で決まっていた。生まれた時点で将来の姿は予想できるため、その枠を外れた希望としての「夢」を語る文化はなく、“希望”としての夢は現実離れで、存在しなかったのである。

転機が訪れたのは明治時代である。新政府によって「四民平等」が定められ、武士や農民といった階級がなくなり、初めて人々は“自分の力で未来を造る”という考えが広まった。鉄道の整備、教育制度の導入、情報の流通などにより人々の暮らしは大きく変化していった。

「夢」という言葉も新たな意味を持つようになり今まで“眠るときに見るもの”だった夢が“未来に実現したい希望”や“目標”として使われるようになったのである(図9)。



図9. 将来の夢

ユダヤ教、キリスト教、イスラム教などの一神教では、1つの絶対神を崇拝し、その神のみを信じる宗教形態である。その神の意志や啓示が共同体の道徳や社会規範の中心に据えられる。それに対し多神教では多くの神が存在し、各々異なる役割や性質をもっている。

古代社会では多神教が広く信仰されていたが聖地エルサレムやメッカのある中東地域を起源とする一神教が普及し、世界に影響を及ぼしている(図10)。



図10. 聖地エルサレム・メッカのある中東

ユダヤ教では「ヤハウエ」、キリスト教では「イエス」イスラム教では「アッラーフ」を唯一神としているが“神”をヘブライ語で「ヤハウエ」、アラビア語で「アッラーフ」といい、3300年以上前にユダヤ教の預言者モーセなどの人物が見た「夢」の中に登場した神に過ぎず、固有名称を示すものではない(図11)。

世界中の人々が3千年以上前の預言者の「夢」に登場した“神”に、未だに翻弄されているのである。



図11. ヤハウエ・アッラーフ